Improvisation Basic vol.03　そのコードの中で伸ばせる音を探してみる

では、Improvisation Basic vol.03、始めていきましょう。

前 2 回では、主にフレーズを作る為に必要な、大元の発想について解説しましたね。

なので今回は、タイトルにもある様に、

『特定のコードの中で伸ばせる音(≒使いやすい音)』

を把握する、と言う「対応」の部分を考えていきたいと思います。

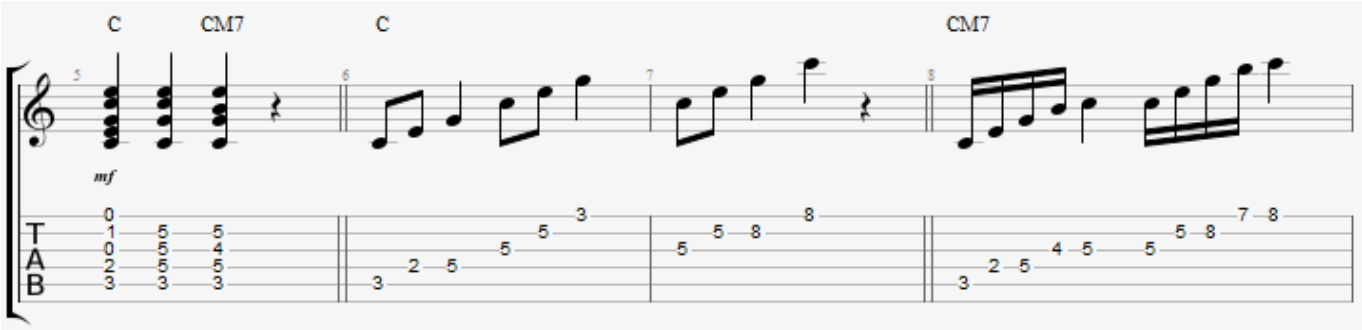
まず、通常の楽曲はコードの進行を含めて構成されていますが、各コードには構成音が存在しているので、それらの音とバッティングする音を不用意に使うとまずい(事が多い)わけですね。

例えば、C(CM7)と言うコード単体で見ると、C 、E、G、(B)がコードの構成音なので、これらの音とお互いを阻害し合わない様にメロディーを構築するのが基本になってきます。

単純に考えれば、あるコードが鳴っている場合、そのコードの構成音を使えば問題は起きないわけです。

C(CM7)の場合で言うと、C、E、G、(B)の音を使えばとりあえず大丈夫、と。

譜例 1、C&CM7、コードトーン

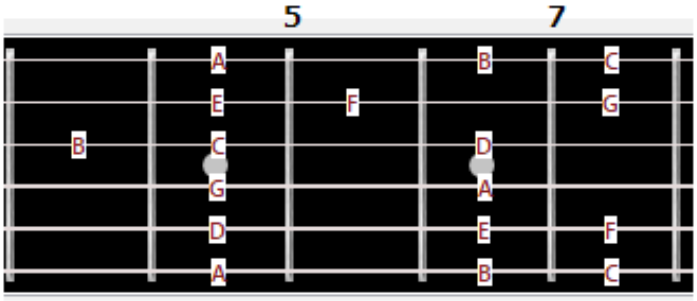


この譜例は、5 弦 3 フレットの C 音をルートにした C コードの周辺と、以前のテキストで使ったポジションで構成音を見た譜例ですね。

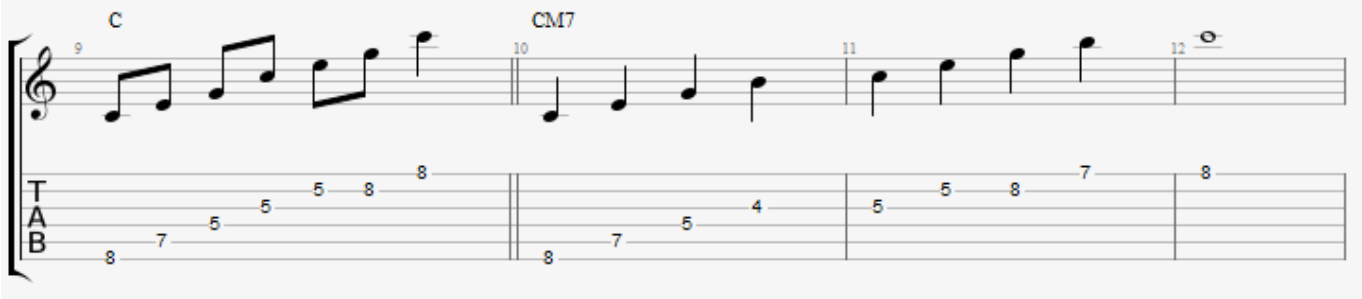
他にも、C メジャースケールの代表的なポジション内で、C コードのコードトーンを見てみると以下の様になります。

図 1、C メジャースケール、重要ポジション

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

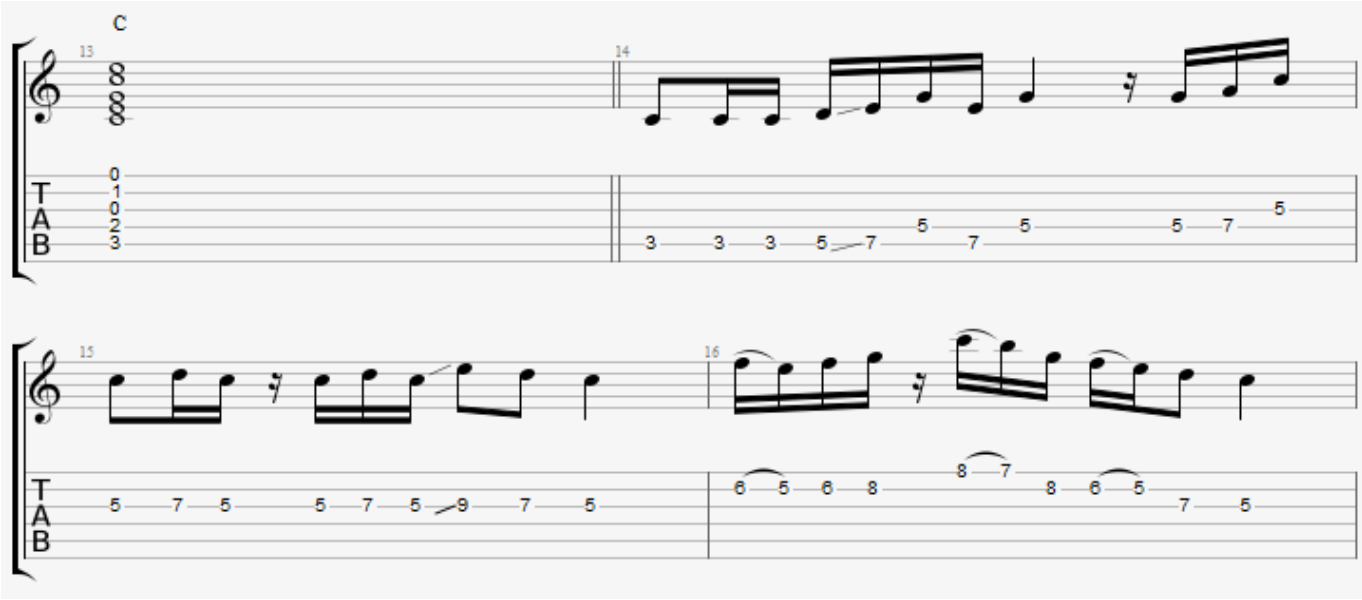


譜例 2、C メジャースケール、上記重要ポジション内、C&CM7、コードトーン



この辺りの音を使って、試しにフレーズを作ってみるとこんな感じです。

譜例 3、C&CM7、コードトーンを重視したフレーズ



曲調を決めていないので、少しのっぺりしたフレーズになっていますが、狙っている事としては、留まる音(伸ばす音)がコード・トーンになる様に弾いています。

ここまでの例は C(CM7)のみで見てきましたが、これと同じような観点で他のコードの場合も考えていく事なりますね。

次に、単体のコードでは無く、複数のコードの中、要するにコード進行の中で、共通の構

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

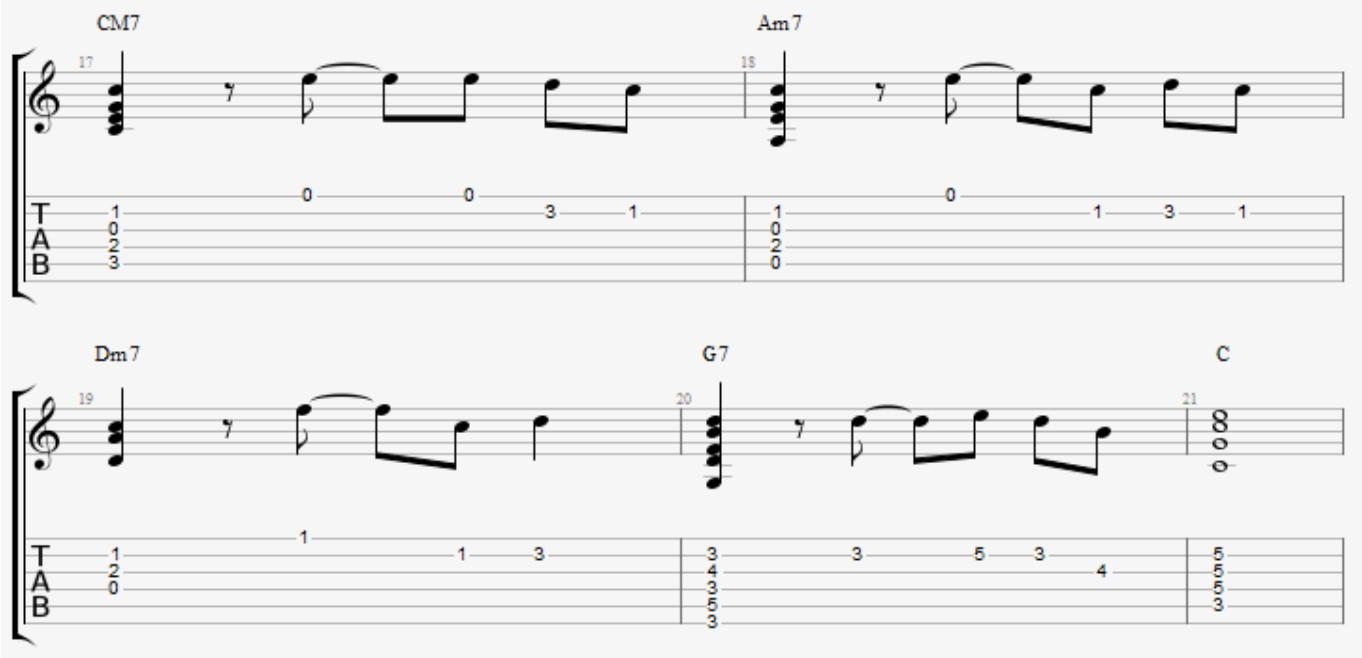
成音を探す、と言う事をしてみましょう。

まず、key=C の 1-6-2-5 である、CM7、Am7、Dm7、G7 の進行で考えてみます。

C(CM7)　→　C、E、G、(B)
Am(Am7)　→　A、C、E、(G)
Dm(Dm7)　→　D、F、A、(C)
G(G7)　→　G、B、D、(F)

これらの音の中から隣り合ったコード同士での共通音を狙ってフレーズを作ってみましょう

譜例 4、隣り合ったコードで共通の構成音を狙う



それぞれ、CM7－Am7 間で C 音、Am7－Dm7 間でも C 音、Dm7－G7 間では D 音を、コード同士の境目で鳴らしています。

この譜例だけを見ると非常にシンプルですが、実際に楽曲を演奏している時に、こう言った視点でプレイすることが出来るのか？と言う所がポイントです。
(※もちろん、常にこうしなけらばならないわけではありませんが)

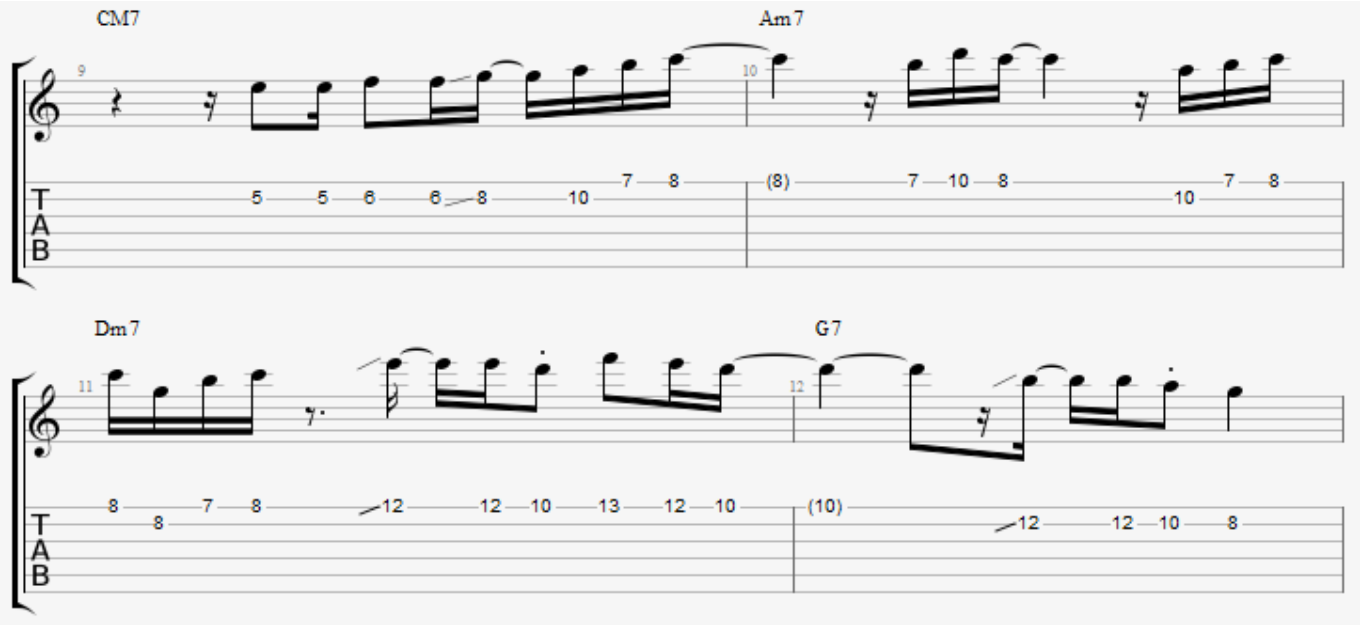
今回のメインのテーマは、「そのコードの中で伸ばせる音を探す」と言う事なので、ワンコードの範囲で考える場合は、そのコードの構成音を弾けばいいわけです。

ですが、複数のコードを跨ぐ時に、何かしらの音を伸ばすフレーズが弾きたい場合、一番安定するのは両コードの共通音を選ぶことですね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

これらを踏まえた上で、先の譜例 4 で選んだ音を、シンコペーション等を絡めて弾いてみたフレーズが以下になります。

譜例 5、隣り合ったコードで共通の構成音を狙う 2



もし、こう言った弾き方をする場合は、今鳴らしている音が、お互いのコードでどういったインターバルになるのか？を気にする必要がありますね。

小節を跨ぐシンコペーションは、少しトリッキーな感じになりますが、フレーズ作りの 1 つの方法として覚えておいて下さい。

簡単なコードバッキングを作って、その上で弾いてみると、感覚が掴みやすくなるでしょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved